



## つち なに 土は何からどうやってできるの

### がんせき ふうか 岩石の風化とバクテリアのはたらき

がんせきは、ながい年月をかけて、気温の変化や、雨・雪、強い日ざしや風などのはたらきによって、表面からくずれて、細かいつづになりす。これを風化といひます。

風化によって、細かくなつた岩石に、コケやいろいろな植物が生えたり、動物や植物の死がいがつまったりしす。ここに、バクテリア(細菌)やミミズのような小さな動物がすみつき、動物や植物の死がいなどを分解していきす。

土は、岩石が風化し、細かくなつたものだけではなく、動物や植物の死がいなどがバクテリアなどによって、分解されたものが、混じつてできたものす。

### つち しゆるい 土の種類

土は、おもに、砂とねん土からできています。土は、つづの大きさ、ねん土のふくまれている量、植物の育つようす、気候などによって、いろいろな種類に分けられす。

ねん土を50パーセント以上ふくむ土をしよく土、ねん土が12.5パーセント以下のもを砂土などといひます。

砂・細砂・ねん土が、ほぼ同じ割合で、混じつている土をロームといひます。関東平野に分布する赤土は、土のつくりがロームに似ているので、関東ロームといわれています。

これらの赤土は、火山の噴火によって積もつた火山灰が、長い年月の間に、おし固められてできた土す。(監修・国司 真)

